

II 主題設定の理由

自分の考えに自信をもち、学びをつなごうとする生徒の育成 ～気づき、広げ、つながりを意識した授業を通して～

近年、知識・情報・技術をめぐる変化の早さが加速度的となり、情報化やグローバル化といった社会的変化が、人間の予測を超えて進展するようになってきている。また、少子高齢化に伴う生産年齢人口の減少も予測が困難な時代の訪れに拍車をかけている。とりわけ、人工知能（AI）の飛躍的な進化は、雇用の在り方や学校教育にも大きな変化をもたらすのではないかとの予測も示されている。教育現場では、タブレット端末などのICT機器が導入され、これまでの暗記と再生を中心とし、より多く、より長く記憶にとどめることこそが優れていると考えられてきた価値観を転換させている。それは同時に、これまでより積極的で多様なかわりを通して、考えることや発信することを中心とした課題解決が求められていることを意味する。学校教育においては、激しく変化する社会を生き抜いていく子どもたちは、様々な変化に積極的に向き合い、他者と協働して直面する課題を解決していくことや、様々な情報を見極めて知識の概念的な理解を実現し、情報を再構成するなどして新たな価値につなげていくことが求められている。

本校生徒の実態として、学校での生活や行事に意欲的に取り組み、素直で明るく生活している。全校生徒へのアンケートでは、9割ほどの生徒が学校生活や行事に対して肯定的な回答をしている。しかし、学習面に焦点を当てていくと、学習の目的を明確に理解していると回答した生徒は、4割弱にとどまるなど、目的意識が希薄な生徒が多い。また、授業で学んだことを他の教科や学校行事、日常生活につながっていると感じている生徒も3割から4割に落ち込んでいる。さらに、様々な活動の場面で友達との人間関係をうまく築くことができない生徒や自分だけでは物事を判断できない生徒、自分の考えに自信をもてない生徒も見られる。生徒へのアンケートの「自分の考えに自信を持っているか」との質問に肯定的な回答をした生徒は6割程度であり、中でも「はっきりとそう思う」と回答した生徒は、全体の2割にとどまった。また「授業の中で困ったり、難しいと感じたりすることはあるか」の回答では「自分の意見が正しいのか不安になる」や「自分の意見が否定されるのではないか」と思い、発表しづらい」という内容の記述が見られた。

このような生徒に対して、「自らの考えに自信をもたせたい」「学んだこと（以下「学び」）をさらにつなげてほしい」と願い、学習活動をしっかり振り返らせたり（気づく学び）、生徒同士の協働を通して自己の考えを広げて深めたり（広げる学び）、問題を見いだして自分の思いや考えを基に解決策を考えたり（つなげる学び）するなど、課題に対して自分なりの納得解や最適解を導き出し、自信をもたせるようにすることが必要であると考えた。

そこで、日々の授業に焦点を当て、教師が各教科の特質に応じた見方・考え方を働かせた授業の改善を図ることにより、生徒は自分の考えに自信をもつことができると考えた。さらに、生徒自身が課題に気づき、考えを広げ、学びをつなぐことを授業で意図的に設定し、「できたこと」や「分かったこと」をはっきりとさせていけば、学校での学習活動だけでなく、自己の日常生活にもつなげ、生涯にわたって主体的に学び続けることができると考え、本研究主題を設定した。

Ⅲ 研究の内容

1 目指す生徒像

本校では、目指す生徒像を以下のように設定した。

目指す生徒

『自分の考えに自信をもち、学びをつなごうとする生徒』

※ 「自分の考えに自信をもち、学びをつなごうとする生徒」とは、授業や日常生活の中で、課題に直面したとき、様々な教科等で働かせてきた「見方・考え方」を組み合わせたり、関連付けたりするなどして、自分なりの納得解・最適解を導き出せるような生徒とした。

2 研究仮説

教師が各教科の特質に応じた見方・考え方を大切にし、気づき、広げ、つながりを意識した授業を行えば、生徒は自分の考えに自信をもち、学びを他教科や日常生活につなげていくことができるだろう。

3 研究の手立て

各教科の特質に応じた見方・考え方を大切にし、3つの学び（気付く学び、広げる学び、つなげる学び）を意識した授業を行う。

(1) 気付く学び

学ぶことに興味や関心を持ち、見通しをもって粘り強く取り組み、学習活動を振り返る学び。

ア 学ぶことに興味や関心を持たせる

- 導入の段階を工夫することで、学級の実態や考えを知らせる。
- グラフや写真、データなどを提示し、本時の学習内容を予想させ、疑問をもたせる。
- 授業内容が日常生活の中で起こりそうな問題と関わりがある場面を取り上げ、生徒に日常生活を想起させる。

イ 見通しをもって粘り強く取り組ませる

- 初見の考えや感想をもたせる場面を設定し、その後の活動につなげる。
- 単元の全体構想をつかんだ上で、単元全体の学習の見通しをもたせる。
- 小学校を含め、これまで学習したことの復習を行い、本時の内容と比較させたり、課題解決の手掛かりにさせたりする。

ウ 学習活動を振り返って次の課題に気付かせる

- 課題に対する学習内容を確認させる。
- 学習内容を現在や過去の学習内容と関係付けたり、一般化させたりする。
- これまでの振り返りを見返すなど、自己の変容を自覚させる。

(2) 広げる学び

生徒同士の協働や様々な人との対話、多くの考え方を手掛かりに考えることを通じ、自己の考えを広げ深める学び。

ア 生徒同士で協働させる

- グループやクラス全体で協力し、分類したり、関連付けたりしながら課題を解決させる。
- グラフや図、表などにまとめて視覚化させる。
- 書画カメラなどのICT機器を有効的に使いながら説明させる。
- ホワイトボードに課題解決に迫るキーワードなどを書かせる。

イ 様々な人と対話をさせる

- 自分の考えの立場や考え方など、ポイントをしぼって比較させる。
- ペアで意見を共有させたり、確認させたりする。
- 級友や保護者、地域の人と話し合いをさせる。

ウ 多くの考え方を手掛かりに考えさせる

- 自分の考えをノートやワークシートに記述させたり、動きや色などで表現させたりする。
- 資料の中から、生徒自らが必要とする情報に順位（軽重）をつけさせる。
- 本やインターネットなどを活用して先哲の考え方などの情報を収集させる。

(3) つなげる学び

多くの知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして自分の思いや考えを基に解決策を考えたりする学び。

ア 多くの知識を相互に関連付けてより深く理解させる

- 学習内容を利用した発展問題に取り組みさせる。
- 学習内容が日常生活で生かされている場面を考えさせたり、気付かせたりする。

イ 情報を精査して考えを形成させる

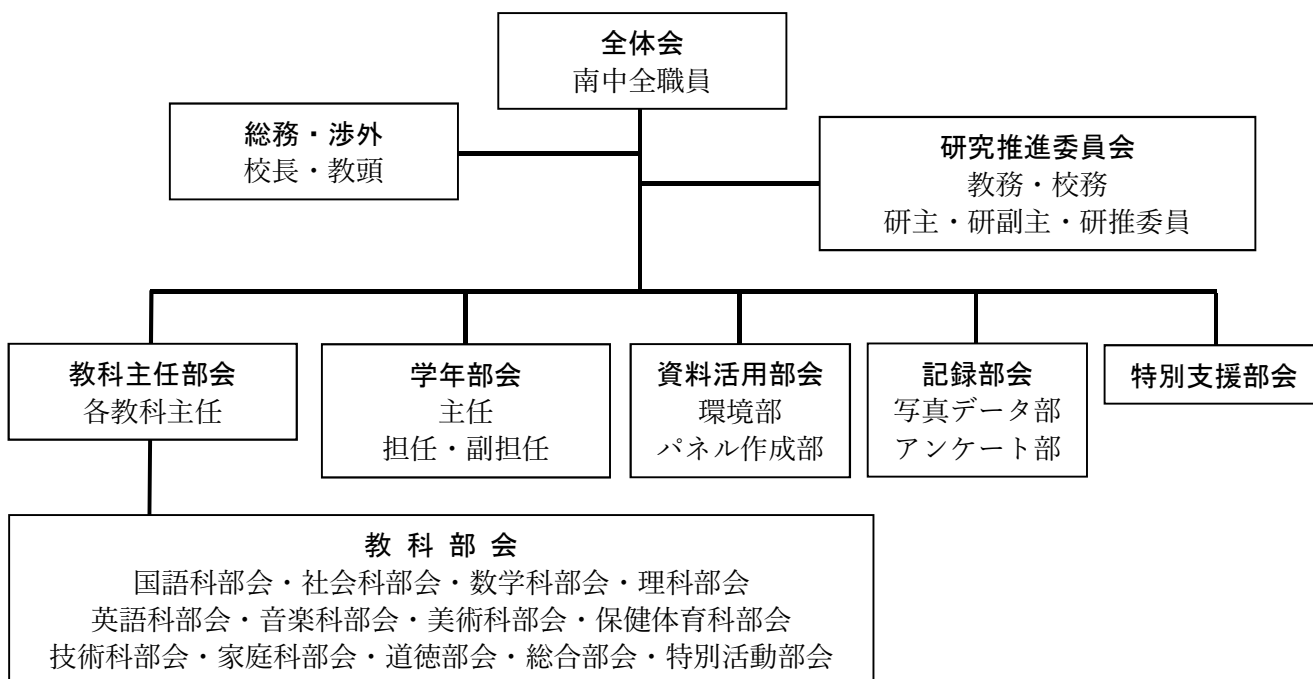
- 自分の考えを構成するための根拠をもって情報を整理させる。
- これまでの学びを自分の言葉や文章でまとめさせる。

ウ 問題を見いだして自分の思いや考えを基に解決策を考えさせる

- 「自分なら何ができるか」「どのように関わるか」など、視点を与えて考えさせる。
- これまでの学びの現状を踏まえ、新しい課題を考えさせる。

4 研究の組織

校長・教頭の指導のもとに研究推進委員会を設け、さらに、実務的な役割を果たす5つの部会を設置した。



【教科部会・特別支援部会】

国語科部会	◎深谷・高見・片田・熊澤・松島・向井	社会科部会	◎田中・福井・早川・遠藤・下古谷
数学科部会	◎島田・山分・桂川・平木・内山・庄司	理科部会	◎大橋・鬼塚・山本武・荻野・藤田・前嶋
音楽部会	◎森村・木本	美術部会	◎野入
保健体育科部会	◎柴田・別所・越野・山本毬・川原	技術部会	◎下岡
家庭科部会	◎加藤	英語科部会	◎仲井・小野山・谷内・金子・大井・佐藤
道徳部会	◎森村・下古谷・田中・向井・木本	特別活動部会	◎小野山・深谷・大橋・遠藤
総合部会	◎遠藤・学主・鬼塚・藤田・桂川	特別支援部	◎若尾・前嶋

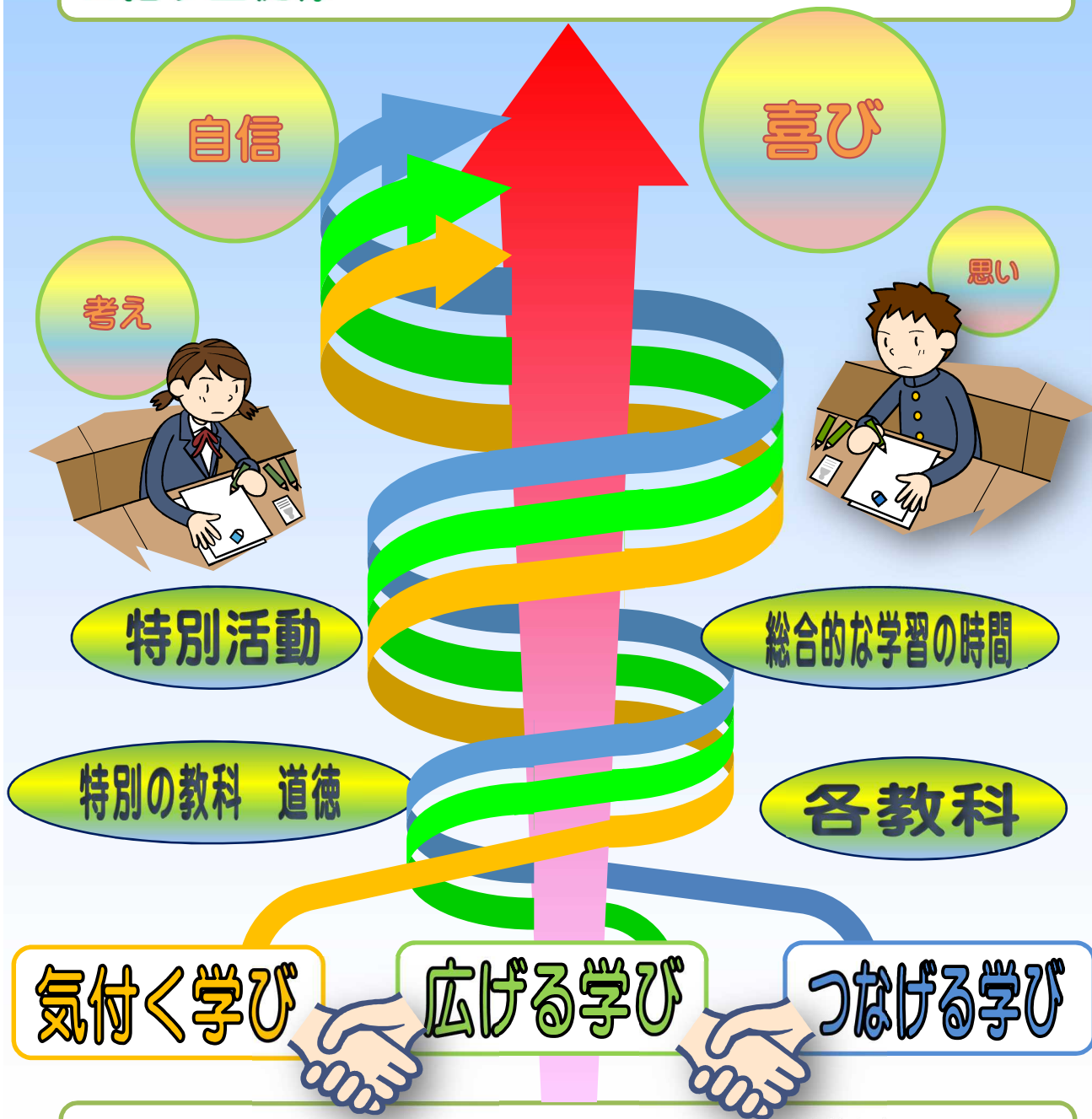
【各種部会】

環境部	◎小野山・野入・桂川・柴田・仲井・川原・鬼塚・片田・島田・田中	パネル作成部	◎遠藤・下古谷・熊澤・平木・大井・別所・加藤・金子・下岡
写真データ部	◎早川・越野・庄司・佐藤・荻野・木本・内山・山本毬	アンケート部	◎高見・森村・藤田・山分・深谷・大橋・谷内・松島・向井



生涯にわたって、主体的に学び続けることができる！

目指す生徒像 自分の考えに自信をもち、学びをつなごうとする生徒



生徒の実態

- ・ 学習の目的が希薄である
- ・ 受動的な態度である
- ・ 学びを生かしていない
- ・ 考えに自信がもてない